

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Iype=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 12月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に、建っています。北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことができる環境の中で、心なみ、ゆっくりゆったりとした時間を過ごすことができます。年2回のランチビュッフェや、天気の良い日には、敷地内で花を見たり近くの公園まで散歩を楽しむなど日々ゆったりとした生活を過ごしております。近隣の方々のご理解ご協力で支えられ、「その人と共にある」を常に想い、ご家族様、近隣の皆様と連携を取りながら、職員一同、入居者様や地域福祉の為に日々努力しております。

法人が運営する施設が隣接し、法人本部や他の事業所と協力しながら、地域に密着した事業所運営を実践している。コロナ禍による面会や会議開催の制限がある中でも、事業所の別棟に会議室が用意され、地域や市担当者との意見交換や情報共有の場として活用することができている。町内会に所属し、お祭り時の子ども神輿や防災訓練時の炊き出し、ボランティアの受け入れなどの交流機会を積極的に設け、地域との協力関係を築いている。管理者は、ユニット会議や個人面談を活用して職員の意見の抽出に努めている。更に目標管理等の仕組みを整え、職員個々のスキルアップとより良い事業所作りの環境整備に注力している。桜・柿・栗などの樹木がある広い敷地内での散歩や外気浴や、年2回のランチビュッフェを開催して食事を楽しむ機会を設けるなど、事業所理念の「ゆったりと、ゆっくと第三の人生を共に歩む」暮らしの支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただき、それぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同日々取り組んでいます。	理念は事業所入口やフロアに掲示し、職員は常に確認しながら、利用者への支援を心掛けている。管理者は、ユニットリーダーと連携しながら、日々の申し送り時やユニット会議で情報共有を図り、理念に基づいた取り組みを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などに参加しております。地域運営推進会議に町内会長、民生委員の方に参加いただき情報の共有に努めております。	お祭りや子供シャガリの訪問など、毎月行事に参加する機会があり、地域との交流が盛んである。新型コロナウイルス感染防止対策のため、現在は訪問は制限されているが、運営推進会議参加時に相談し、新たな交流(町内のかたりべ)を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風などによる河川氾濫などの時には、同法人内所有の建物の中に避難できるよう安久町内会や隣接の函南町間宮地区との連携を強めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、研修報告などをさせていただきながら、参加されている皆様よりご意見を頂戴し、より良いケアができるようサービス向上につなげています。	コロナ禍で事業所への訪問を制限している中、法人所有の近隣会議室を利用して、2か月に1回運営推進会議を開催している(4月は書面開催)。地域包括支援センター職員・町内会会長・民生委員・近隣住民の参加があり、状況報告や相談などの情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、意見や情報を頂戴する他3か月に1度開催される三島市グループホーム連絡協議会に参加して情報交換や情報共有を行うとともに介護の日の写真展示なども行っています。	社協に相談してボランティア派遣を依頼し、手品や三味線演奏のイベントを開催している。3か月に1回三島市グループホーム連絡会に参加し、他事業所と課題等の情報交換を図りながら、写真展などの行事に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員より各事業所へ報告し、研修を行っています。身体拘束廃止マニュアルを準備して、やむをえない場合、主治医・看護師・職員・御家族との話し合いを行い、ご家族に同意をいただくようにしています。	法人は、指針・マニュアルを整備し、「身体拘束対策検討委員会」にて、2~3か月に1回程度、法人内他事業所との情報を共有している。委員会での検討内容は、参加職員から報告を受けて職員全員で情報共有するとともに、年2回の職員研修により周知を図っている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、身体拘束廃止委員会の中で話し合い、チェックシートを職員に配布し、集計を行い虐待防止の見える化を図ることで職員の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利者擁護の制度はある程度頭には入っていますが、現在対象者がいない為、定期的に研修が必要だと感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ち会える方のみ)、ご家族に同席頂き、契約書・重要事項説明書の説明をさせていただいております。制度改正による利用料金の変更などの際には、変更の同意書を送らせていただき同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し来設者にご意見をいただくとともに、ご家族が面会にいらした際には、管理者や担当職員がご意見ご要望を伺い各ユニット会議にて職員に報告して反映するよう努めています。	利用者ごとに担当職員を配し、担当職員が中心となって利用者・家族との連絡を取っている。毎月写真にコメントをつけて、利用者の様子を家族に伝えている。コロナ禍で面会を制限している中、こまめな電話連絡を心掛けている。	コロナ禍で面会を制限している中、電話連絡等により、家族との連絡を怠らないように努めていますが、更なる家族意見の抽出方法として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や個人面談等によりその都度職員の意見や提案を聞く機会を設けて、出された意見を管理者会議に持ち寄り反映できるよう取り組んでいます。	法人は、人事による年1回の個人面談や管理者会議を通して、管理者・職員との意見交換を図っている。管理者は、スキルチェックシートなどを活用した職員の目標管理体制を整え、職員からの意見の吸い上げができる仕組み作りを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人代表による、年1回の個人面談等により問題点の把握に努め、環境整備を行っています。 今後は、スキルチェックや目標管理を行うことで事業所及び職員個々のスキルアップやより良い事業所作りを目指していきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や就業年数により、法人内委員会に事業所代表として参加していただき、事業所にて研修リーダーとなってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様に話を聞かせていただき、不安なこと、困っていること、要望を把握し、安心で安全な環境を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学時や面談時にご家族の困っていること、要望等を聞かせていただき、連絡をこまめに行い信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しく入居される方は、相談及び面談の時に伺った情報をもとに必要な支援を行うことで、安心安全な生活をしていただけるよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり尊厳の心を持ち接しています。ご自分でできることはやっただけできるよう声かけをさせていただいております。できないことや難しいことは支援させていただき、共に生活を支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送らせていただいている請求書の中に入居者様のホーム内での様子を担当職員が、写真や手紙で同封させていただき伝えるようにしています。生活のすべてを施設が行うのではなく、ご家族様にもかかわりを持っていただけるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく、入居前にお付き合いのあった友人の方の面会などもお願いしています。ご家族にお願いして可能な限り外出の機会を設けるようお願いしています。	コロナ禍により、現在は外出・面会を制限しているが、平時は、家族と共に自宅への帰宅や友人の面会など、関係継続を支援している。入居年数の長い利用者にとっては、事業所や職員、および事業所に訪ねてくる介護相談員が馴染みとなるよう、関係作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様の個性や生活歴、その時の状況、相性などを考え、職員が調整役となり、入居者様同士が支えあい助け合えるような支援ができるよう努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が、安心安全に過ごしていただけるよう、退居後の様子をご家族に伺ったり、お困りの際は相談に乗るようさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらぬよう居室の家具の配置を変更したり、安心安全に過ごせるよう工夫しています。居室の前には名札をつけさせていただいたり、トイレがわかるよう表示を設置し不安にならないよう工夫しています。	入居面談時に、フェイスシートを記入して利用者・家族の意向を把握している。アセスメントシートや気づきシート(1週間観察)を活用し、職員との情報を共有している。入居後の変化は、ユニット会議にて短期目標とのすり合わせや変更を行い、利用者本位の支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様との会話やコミュニケーションの中から今までの生活やなじみの暮らしを教えていただいたり、ご家族様から伺った生活歴などで情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察させていただくことで心身の把握に努めています。介護記録の確認やカンファレンスを行い職員間での情報共有にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人様の気持ちを考え、ご家族様の意向を伺い、毎月行っているユニット会議の中で看護師を交え、居室担当を中心に話し合いを行い日頃の気づきを介護計画に反映させるようにしています。	法人独自の「業務日誌」「介護経過記録」を活用し、利用者の日々の状態の把握に努めている。ユニット会議では、担当職員を中心に、看護師を交えてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、体調管理表、排泄記録表等で日頃の状態を把握し、介護記録にて行った内容、結果を記録し、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有して介護計画の見直しに生かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で生まれるニーズに対応して、法人内の会議で話し合い、可能な限り柔軟な支援が行えるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで住まれていた近隣の方の面会や、地域の行事に参加、子供神輿やしざり、お神楽の来訪、職場体験や実習生の受け入れ等を積極的に行うことで、入居者の皆様が馴染みの生活楽しむことができるように支援させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、ご本人様、ご家族様の医療に対してのご要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療に変更していただき、適切な医療を受けられるように支援しています。	協力医は、かかりつけ医として月2回訪問診療にて利用者の健康管理を行っている。以前からのかかりつけ医への通院は、家族の協力を得て継続している。他科受診の際は、家族へ確認の上、通院支援をしている。看護師は週3回訪問し、協力医と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、ユニット会議に参加し、気が付いたことを報告してアドバイスをもらったり訪問医と連携を取り、適切で迅速な対応ができるよう支援させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態を把握させていただき、情報の提供をお願いし、施設での対応や体制を説明し、相談しながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のあり方について、自施設の指針を説明させていただいています。終末期には、主治医とご家族、看護師職員で話し合いを重ね、ご本人様、ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいています。	緊急時対応については、入居時に、指針を説明し、状態変更や急変時の対応について「医療等に関する意見確認書」を利用者・家族が記入している。医師や医療機関等の連携体制を整え、利用者・家族の意向に沿った対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、入居者様の急変時や事故発生時に、全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員訓練を実施しています。	年2回、地震・水害を想定して防災訓練を行っている。カセットコンロ・発電機を用意し、3日分を目途に水・食料の備蓄品を管理している。法人全体でも備蓄庫を整備し、炊き出し訓練を実施するなど、地域との協力関係を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声かけを行い受容の心で支援させていただいています。	個人情報やプライバシー保護について、職員研修を定期的に行い、周知を図っている。管理者やリーダーは、職員会議やユニット会議開催時や日々の対応の都度、声掛けを心掛け、人格を尊重した対応の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情やふおうさをよく観察し、ご本人様の思いを思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるように務めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを慮り、体操・レクリエーション等も取り入れ、ご希望に沿った支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族との外出の機会を作るため馴染みの美容室に行かれる方もいますが、ほとんどの入居者様は、訪問理容をご利用になっております。衣類を選んだり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、朝食は毎日0クックを利用、昼食・夕食は、週に4回0クックを利用し、週3回は、調理員が手作りの食事を提供しております。行事食として年2回ランチビュッフェを開催したり、季節によりお刺身を提供し皆様喜ばれています。おやつでも季節により手作りおやつを提供しています。	宅配の食材を活用しながら、手作りの食事の提供を大切にしている。行事やおやつ作り際には、季節感を取り入れて、利用者の好みを反映した献立を心掛けている。誕生会の折には、利用者とともにケーキの飾りつけを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録して、水分摂取の少ない方には、ゼリーなどで補っていただいています。食事形態に関しては、身体状況に合わせ、普通食、キザミ食、ペースト食で対応しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っていただいております。できる方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後洗浄剤につけ夜間お預かりさせていただいております。数名の方が訪問歯科で義歯の調整や口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情等に注意を払い誘導するなど自立に向けた支援をさせていただいております。	業務日誌と排泄管理表(記録表)を確認しながら、利用者一人ひとりの状態に合わせた対応を心掛けている。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中は声掛けに留意し、トイレへの誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、朝食前に牛乳を飲んでいただいたり、ゼリー等を提供したり、体操への参加の声かけを行い、個々に合わせた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただいております。その日の体調により日にちや時間を差し替える等の対応をしております。状況により時間を問わず、シャワー浴手浴、足浴等の対応をしております。	週2回、利用者の体調や状態を見ながら、入浴を支援している。楽しく入浴してもらえるように、入浴剤や炭酸浴泉の利用などの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、入居者様の体調や習慣に合わせて、必要に応じて昼寝ができるよう環境作りをしています。夜間、気持ちよくお休みいただけるよう、リネン類の洗濯、布団干しを定期的に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者個々の状況に合わせて行っております。新しく処方された薬の場合は、体調の変化など注意深く観察、記録し、主治医・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり巻きを手伝っていただいております。ストレス解消や気分転換に散歩や花見、運動会などの行事に参加していただき楽しませております。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の意思を尊重して、天気が良く暖かい日など声かけを行い散歩や敷地内の花見など行っています。ご家族とともに外出され外での食事を楽しまれる方もいらっしゃいます。	コロナ禍で、面会・外出を制限しているが、事業所の横には、桜・柿・栗の樹木があり、利用者の体調に合わせて気軽に外気浴や散歩を楽しみながら、季節の移ろいを感じることができ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居される際に、ご家族様にトラブルがあり得ることを理解していただき、ご本人が不安を感じないように所持される方もいます。外出の際必要なものを買う支援をしたり、所持されていない方は、立替にて購入していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙は、ご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう、入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいています。清掃をこまめに行い、清潔で明るい居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。	朝食後と午後に定期的な清掃を行い、こまめな換気と消毒により、清潔な室内空間が保たれている。居間には、季節を感じられる作品を掲示したり、室温・採光に気を付け、明るく居心地よい空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルやイス、ソファ、簡易ベッドを置き、お好きな場所で過ごしていただき、入居者様の相性等により席替えを行い、会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、ご家族に依頼して使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき、居心地の良い空間づくりを工夫しております。	クローゼットが造り付けられた居室には、利用者の状態に合わせてベッドや使い慣れた家具、テレビなどが持ち込まれている。居室入り口に表札をかけ、居室担当者を中心に、利用者個々の好みの部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、居室内の家具やベッドの位置を変更し、自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室に名札やトイレを大きな字で表示することにより、入居者様が迷わないよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日
※事業所の基本情報	は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)		
基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Ivpe=search		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に、建っています。北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことができる環境の中で、心和み、ゆっくりゆったりとした時間を過ごすことができます。年2回のランチビュッフェや、天気の良い日には、敷地内で花を見たり近くの公園まで散歩を楽しむなど日々ゆったりとした生活を過ごしております。近隣の方々のご理解ご協力が支えられ、「その人と共にある」を常に想い、ご家族様、近隣の皆様と連携を取りながら、職員一同、入居者様や地域福祉の為に日々努力しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 12月 20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リネンの中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただき、それぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などに参加しております。地域運営推進会議に町内会長、民生委員の方に参加いただき情報の共有に努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風などによる河川氾濫などの時には、同法人内所有の建物の中に避難できるよう安久町内会や隣接の函南町間宮地区との連携を強めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、研修報告などをさせていただきながら、参加されている皆様よりご意見を頂戴し、より良いケアができるようサービス向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、意見や情報を頂戴する他3か月に1度開催される三島市グループホーム連絡協議会に参加して情報交換や情報共有を行うとともに介護の日の写真展示なども行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員より各事業所へ報告し、研修を行っています。身体拘束廃止マニュアルを準備して、やむをえない場合、主治医・看護師・職員・御家族との話し合いを行い、ご家族に同意をいただくようにしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、身体拘束廃止委員会の中で話し合い、チェックシートを職員に配布し、集計を行い虐待防止の見える化を図ることで職員の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利者擁護の制度はある程度頭には入っていますが、現在対象者がいない為、定期的に研修が必要だと感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ち会える方のみ)、ご家族に同席頂き、契約書・重要事項説明書の説明をさせていただいております。制度改正による利用料金の変更などの際には、変更の同意書を送らせていただき同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し来設者にご意見をいただくとともに、ご家族が面会にいらした際には、管理者や担当職員がご意見ご要望を伺い各ユニット会議にて職員に報告して反映するよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や個人面談等によりその都度職員の意見や提案を聞く機会を設けて、出された意見を管理者会議に持ち寄り反映できるよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人代表による、年1回の個人面談等により問題点の把握に努め、環境整備を行っています。 今後は、スキルチェックや目標管理を行うことで事業所及び職員個々のスキルアップやより良い事業所作りを目指していきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や就業年数により、法人内委員会に事業所代表として参加していただき、事業所にて研修リーダーとなってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様に話を聞かせていただき、不安なこと、困っていること、要望を把握し、安心で安全な環境を提供できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学時や面談時にご家族の困っていること、要望等を聞かせていただき、連絡をこまめに行い信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しく入居される方は、相談及び面談の時に伺った情報をもとに必要な支援を行うことで、安心安全な生活をしていただけるよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり尊敬の心を持ち接しています。ご自分でできることはやっただけできるよう声をかけていただいております。できないことや難しいことは支援させていただき、共に生活を支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送らせていただいている請求書の中に入居者様のホーム内での様子を担当職員が、写真や手紙で同封させていただき伝えるようにしています。生活のすべてを施設が行うのではなく、ご家族様にもかかわりを持っていただけるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく、入居前にお付き合いのあった友人の方の面会などもお願いしています。ご家族にお願いして可能な限り外出の機会を設けるようお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様の個性や生活歴、その時の状況、相性などを考え、職員が調整役となり、入居者様同士が支えあい助け合えるような支援ができるよう努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が、安心安全に過ごしていただけるよう、退居後の様子をご家族に伺ったり、お困りの際は相談に乗るようさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらぬよう居室の家具の配置を変更したり、安心安全に過ごせるよう工夫しています。居室の前には名札をつけさせていただいたり、トイレがわかるよう表示を設置し不安にならないよう工夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様との会話やこにゆにケーションの中から今までの生活やなじみの暮らしを教えていただいたり、ご家族様から伺った生活歴などで情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察させていただくことで心身の把握に努めています。介護記録の確認やカンファレンスを行い職員間での情報共有にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人様の気持ちを考え、ご家族様の意向を伺い、毎月行っているユニット会議の中で看護師を交え、居室担当を中心に話し合いを行い日頃の気づきを介護計画に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、体調管理表、排泄記録表等で日頃の状態を把握し、介護記録に手行った内容、結果を記録し、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有して介護計画の見直しに生かしています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で生まれるニーズに対応して、法人内の会議で話し合い、可能な限り柔軟な支援が行えるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで住まれていた近隣の方の面会や、地域の行事に参加、子供神輿やしやぎり、お神楽の来訪、職場体験や実習生の受け入れ等を積極的に行うことで、入居者の皆様が馴染みの生活楽しむことができるように支援させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、ご本人様、ご家族様の医療に対してのご要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療に変更していただき、適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、ユニット会議に参加し、気が付いたことを報告してアドバイスをもらったり訪問医と連携を取り、適切で迅速な対応ができるよう支援させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態を把握させていただき、情報の提供をお願いし、施設での対応や体制を説明し、相談しながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のあり方について、自施設の指針を説明させていただいています。終末期には、主治医とご家族、看護師しよくいんではなしあいを重ね、ご本人様、ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、入居者様の急変時や事故発生時に、全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員訓練を実施しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声かけを行い受容の心で支援させていただいています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情やふおうさをよく観察し、ご本人様の思いを思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるように務めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを慮り、体操・レクリエーション等も取り入れ、ご希望に沿った支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族との外出の機会を作るため馴染みの美容室に行かれる方もいますが、ほとんどの入居者様は、訪問理容をご利用になっております。衣類を選んだり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、朝食は毎日0クックを利用、昼食・夕食は、週に4回0クックを利用し、週3回は、調理員が手作りの食事を提供しております。行事食として年2回ランチビュッフェを開催したり、季節によりお刺身を提供し皆様喜ばれています。おやつでも季節により手作りおやつを提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録して、水分摂取の少ない方には、ゼリーなどで補っていただいています。食事形態に関しては、身体状況に合わせ、普通食、キザミ食、ペースト食で対応しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っていただいております。できる方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後洗浄剤につけ夜間お預かりさせていただいております。ほとんどの方が訪問歯科で義歯の調整や口腔ケアを行って		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情等に注意を払い誘導するなど自立に向けた支援をさせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、朝食後主治医の指示により下剤を服用していただいております。10時の水分補給の際、牛乳の入った飲物を飲んでいただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴していただいております。その日の体調により日にちや時間を差し替える等の対応をしております。状況により時間を問わず、シャワー浴手浴、足浴等の対応をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ほとんどの方がリビングでテレビを見たり体操やレクリエーションに参加して過ごされています。夜間、気持ちよくお休みいただけるよう、リネン類の洗濯、布団干しを定期的に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者個々の状況に合わせて行っております。新しく処方された薬の場合は、体調の変化など注意深く観察、記録し、主治医・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり巻きを手伝っていただいております。ストレス解消や気分転換に散歩や花見、運動会などの行事に参加していただき楽しまれております。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の意思を尊重して、天気が良く暖かい日など声かけを行い散歩や敷地内の花見など行っています。ご家族とともに外出され外での食事を楽しまれる方もいらっしゃいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居される際に、ご家族様にトラブルがあり得ることを理解していただき、ご本人が不安を感じないように所持される方もいます。外出の際必要なものを買う支援をしたり、所持されていない方は、立替にて購入していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙は、ご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいています。清掃をこまめに行い、清潔で明るい居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルやイス、ソファを置きお好きな場所で過ごしていただいております。入居者様の相性等により席替えを行い、会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、ご家族に依頼して使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき、居心地の良い空間づくりを工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、居室内の家具やベッドの位置を変更し、自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室に名札やトイレを大きな字で表示することにより、入居者様が迷わないよう工夫しています。		